

## 県外派遣報告書

審判員名	日野原 由香	所属	ミニ連
大会名	平成26年度 第36回関東ミニバスケットボール大会		
期間	平成27年1月10日(土)～12日(月)		
会場	群馬県総合スポーツセンター(ALSOKぐんまアリーナ)		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月10日(土)	審判会議	群馬県総合スポーツセンター会議室	
1月11日(日)	予選リーグ	群馬県総合スポーツセンター	
1月12日(月)	決勝リーグ・順位別リーグ	群馬県総合スポーツセンター	
会議 講義 内容			
<p>講師:佐藤 弘之氏          四原則の確認と気づく力についてお話しをいただきました。          審判員に求められることのひとつとして、気づく力が大切である。これは、足を使い判断をし確認して判定につなげる為に必要。何か起きる前に気づき、その準備が出来るように。その為には、足を運んで確認する努力を怠らないこと。これが成長する唯一の行動。気づきを増やすためには、過去や周りからの情報も大切だが、試合中に起きている情報が一番であり、これらをパートナーと協力して必死に対応をし続けなくてはならない。より良い判定をするためにはマニュアルの理解も必要であり、四原則をもう一度確認してほしい。但し、マニュアルは活用するもので守るものはルールであることを忘れないでほしい。そして、パートナーと協力をして進行役を務めてほしい。</p>			
実技			
担当試合	期 日	平成27年1月11日(日)	(男子) 女子
	対戦カード	国立一(東京) VS 桐生境野(群馬)	主審 (副審)
	相手審判	相木 康岳 氏(千葉)	
ミーティング内容		主任 横山 稔 氏(本部)	
<p>最後まで積極的に判定し、ダブルホイッスルもあって良かったが、1対1の勝ち負けの理解をもう少し長い時間で捉える必要がなかったか。そうすることで、鳴らさなくても良い判定が出来る。ブラインドになってしまった後の修正が必要。早めの予測をすることで回避できる。</p>			
担当試合	期 日	平成27年1月11日(日)	男子 (女子)
	対戦カード	大谷北(栃木) VS 館林南光(群馬)	主審 (副審)
	相手審判	三好 英美 氏(東京)	
ミーティング内容		主任 宇田川 晶彦 氏(神奈川)	
<p>圧倒的なシュート力を持つ館林南光に対して、それを守る大谷北のディフェンスについてどうだったか。ゾーンプレスに対する対応の遅れが反省。ブロックショットについても着地までしっかりと見て判定を。          気にする点が多い試合内容の中で、情報量の少なさが課題となりました。また、ベンチへの対応として何事もなく終わらせるという点で学ぶことが多かった。</p>			

担当試合	期 日	平成27年1月12日(月)	(男子) 女子	
	対戦カード	藤白(茨城) VS 光華(東京)	主審	(副審)
	相手審判	掛川 靖 氏(群馬)		
ミーティング内容		主任 飯塚 剛 氏(東京)		
<p>一試合を通して、一貫した判定が出来たことは良かった。速い展開の中で、ボール中心が原因で遅れてしまう場面があり、トレイルの工夫についてご指摘をいただきました。また、もっと相手審判を確認することでマニュアル通りでなく、より良い位置取りが出来るようになるのではないか。今後につなげて欲しい。</p>				
担当試合	期 日	平成27年1月12日(月)	(男子) 女子	
	対戦カード	桐生相生(群馬) VS ジュニアファイブ(千葉)	主審	(副審)
	相手審判	山野辺 智晴 氏(茨城)		
ミーティング内容		主任 野木村 仁 氏(群馬)		
<p>前半のスローペースな流れに対して、後半の動き方に影響はなかったか。止まって見てしまうことがどうしても多くなる中、プレイヤーに合わせず動きの工夫が必要とご指摘いただきました。判定材料が少ない時ほど、細かくひとつひとつの位置取りを大切に。</p>				
全体の感想				
<p>三日間、試合を見てお話を聞き実際にコートに立ち、普段では出来ない経験をさせていただき、沢山のヒントや解決策を持ち帰ることが出来ました。不安もありましたが、多くの方に支えられ良い緊張感を持って過ごせたことは貴重な経験となりました。県外の方たちとの交流の場では勉強になることばかりで、沢山の刺激を受けました。自身の判定は勿論のこと、様々なことを共有し、自分に足りないものが明確になり、今後の課題として具体的に行動したいと思います。</p> <p>最後になりますが、群馬県の皆様には大変お世話になりました。埼玉県の皆様、このような機会を与えていただき心から感謝申し上げます。学んだことを生かして、県内の試合に向けて日々の活動を頑張ります。</p>				